

◆第3回ワークショップでの意見

※ワークショップではたくさんの意見を頂きましたが、紙面の都合上抜粋としています。

市：札幌市豊平区土木部 設：設計会社

【利用マナーについて】

- ・夜中、駐車場に集まって騒いでいる人達がいる。近所迷惑なので、何か対策を考えてほしい。
- ・駐車場からやや公園内に入った所で、花火をして騒いでいた人達がいる。
- ・生き物の巣穴に光を当てて覗き込むなど、観察マナーの悪い人もいる。
- ・他の公園のことだが、写真撮影のために野鳥に餌付けをしたりしている人や、野鳥撮影のために三脚を広げて通行を妨げる人もいた。
- ・狭い木道で犬を散歩させたり、自転車に乗ったりする人がいるが、そうした利用も他人に迷惑を掛けている。様々な目的の利用者いることを踏まえて計画を考えた方がよい。
- ・まずは、公園利用の注意事項を看板で示すことが大事である。
- ・柵を付けたり、立入禁止にすると、かえって“人が来ない場所”ができて、勝手な利用がされないか。
- ・湿原エリアは様々な植物、水の生物、野鳥、昆虫などが見られる「みんなの宝」がある所。それらを守るためには、多少不便でも宝である湿原や森に入る前には扉（出入口）を開け閉めするような工夫やルールが必要かもしれない。《設》
- ・ルールを決める時は、「なぜダメなのか」という理由を、利用者同士が共有する必要がある。そのためには、行政側からの一方的な注意だけではなく、利用者も交えたルールづくりが必要。



【湿原奥の木道】

- ・奥に向かう木道が廃止となっているが、その木道付近ではめずらしい野鳥が見られる。木道を残すことは考えられないか。
- ・同種の野鳥は、有明・真栄の森に向かう自然遊歩道沿いでも見られる。
- ・利用者の動向を見ると、湿原内の木道を巡る回遊型（ループ型）のルートが多いようだ。
- ・ループ型は木道の延長が長くなる。縦（南北）方向に 1 本の木道を作る方が、コストを抑えることになり、その分、木道を奥まで長く延ばせるのではないか。
- ・縦方向だと、また木道の下に周囲の水が引き込まれてしまい、湿原の乾燥化を早める恐れがある。
- ・木道の配置は、これまで開催した 2 回のワークショップで話し合っこのルートに決まったはず。
- ・今回は、予算も含めて検討した結果を計画図として提示しています。ここから調整できないとは言えませんが、木道に関しては整備費が高額になるため、厳しい財政状況の中では難しいです。《市》
- ・木道の全てに柵は必要か。また、今ある木道をこのままで使うことはできないか。
- ・柵付きの木道を設けたり、老朽化の進んだ木道を撤去したりすることは、利用者の安全を確保するためには必要と考えています。《市》



【自然の保全・再生について】

- ・湿原の奥を自然の「保全・再生」としているが、このままで自然に戻るのか。
- ・この湿原は、明治期に水源池としてせき止められた人工湿原であって、次第に上流からの土砂で埋まり、林の中を川が流れる地形に近づいて行くと思われる。
- ・湿原周辺の林は、人が切開いた後の二次林で占められており、今後 50 年、100 年と掛けて自然林に近づいていく。今はその途中である。
- ・自然林を再生するには、どのような管理をするとよいか。
- ・道内では適度に間伐しながら大径木を早く育成する育林方法を行ってきたところもあるが、そのようなすくすく育った木は倒れやすいという結果が出ているようだ。今の樹林は不用意には間引かず、当面は注意深く様子を見ていく必要があると思う。



【バリアフリー化について】

- ・計画では管理事務所からスロープを下って取水塔までをバリアフリー化の対象としているが、管理事務所から下って右手、水源池の西側岸の通路も公園の見どころの一つ。古いあずまの付近までは、水辺が眺められるので、この区間もバリアフリー化に含めるとよい。

ご参加頂いた皆様、たくさんのご意見をありがとうございました。

■西岡公園のリニューアルに関するお問い合わせ

札幌市豊平区土木部維持管理課公園緑化係（担当：中村 電話 851-1681）

P3



西岡公園は、水辺の公園としてバードウォッチングや自然観察の場として親しまれていますが、近年、木道をはじめとする施設の老朽化が進んできています。

こうした状況から、札幌市では今後も市民の皆さんに安心して西岡公園を利用して頂くため、近隣にお住いの方や公園を利用している皆さん、そして専門家の方々からのご意見をうかがい、公園の改修計画を策定しました。

◆改修後の西岡公園を紹介しました！

西岡公園の改修計画づくりに向けた第3回ワークショップ「報告会：改修後の公園を紹介します」を2月17日土曜日に開催し、公園利用者、近隣の方、専門家など計19名にご参加頂きました。

最初に設計会社の担当者から今回のワークショップに至るまでの説明があり、続いてプロジェクターで改修計画について説明をいたしました。その後、計画図をもとに1時間程度、会場に訪れた皆さんと意見交換を行いました。（詳細は裏面P3をご覧ください）



第3回ワークショップの様子

◆今後のスケジュール

西岡公園の改修計画づくりに向けたワークショップは一旦終了しましたが、これは公園改修の大まかな方針を決めたものなので、この方針に基づいて現地を詳しく測量をしたり、周辺環境への影響等を検証する作業等が必要になります。そこで、今後のスケジュールは以下のようになります。

なお、これから公園の改修計画を進めるにあたっては、ワークショップをもとに作成した計画図を現地で確認する見学会（※）や、公園の利用に向けたルールづくりの話し合い等を行いますので、今後ともご協力の程、よろしくお願いいたします。

	平成30年度				平成31年～
	春	夏	秋	冬	
計画について確認	見学会 ※ 5月12日(土)		説明会	計画内容を変更する場合は説明会を行います。	
細部の調査・検討		測量・基本設計			
工事用図面の作成			実施設計		
公園改修と利用の制限					公園工事
関連事業		倉庫の建設工事			

※見学会：詳しい内容は、4月以降に西岡公園のホームページ、園内の掲示板等でご案内します。

P1

これまでのワークショップの結果をもとに
「西岡公園改修計画」をまとめました

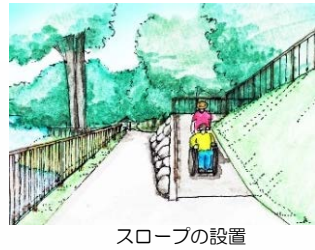
これまで開催した全3回のワークショップの意見と、公園計画・植物・生き物の専門家の方々からの意見も含め、西岡公園の改修計画を次のようにまとめました。

- 1) 改修の目標：動線(人の流れ)に沿った公園の改修
限られた予算の中で、老朽化した公園施設を再整備するため、公園利用の 人の流れを整理し、利用度や重要性の高いものを優先的に改修します。
(下表①～④参照)

2 ■ 施設の整備方針

「①バリアフリー園路」の施設

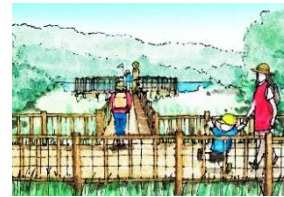
- 高低差や段差はスロープで解消し、手すりも設けます。
- バリアフリー園路の配置は、指定文化財の取水塔、水源池を見渡せる堤体、水辺を間近に見られる西側の岸までを対象とします。
- 人が集まり憩う場には、車椅子でも利用できる新しいあずまやも設置します。



スロープの設置

■「②主園路」の施設

- 土の歩道部は、これまでと同様に散策しやすい園路として維持していきます。
- 木道部分は、湿原を巡る回遊型（ループ型）のルートを中心に、今後は木道下に湿原の水の流れが集中しないよう、地盤の高い場所を選びながら配置を見直します。
- 木道の材質は、耐久性の高い樹脂製のものとし、色調は緑の景観と調和するものを採用します。
- 水源池に張り出す見晴台も木道と同じ材質で揃えます。
- 木道の区間は全て、池や沢への転落防止のため手すりを設置します。
- 手すりの一部には、調査や観察の際には立入ることのできるよう開口部（鍵付き）も設けます。



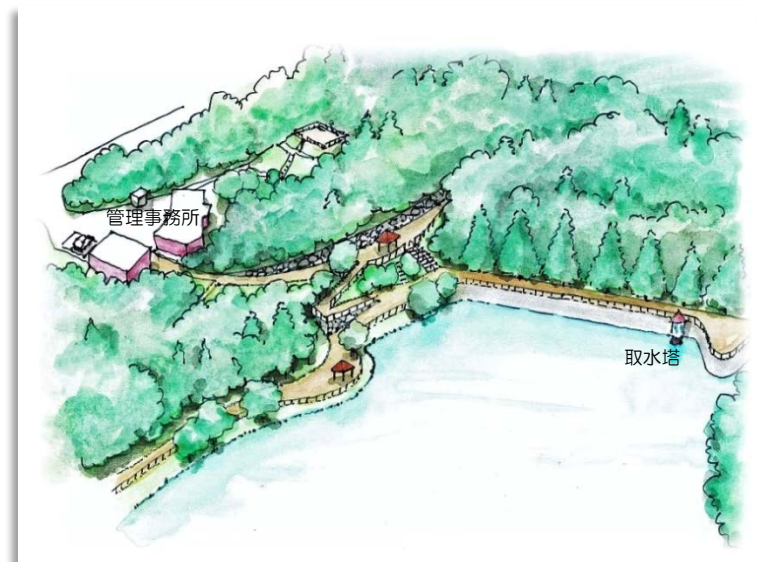
木道の改修

■「③補助園路」の施設

- ベンチやあずまやなど、老朽化した施設は撤去します。
- 転落防止柵など、安全上必要な施設は新しいものにします。

■「④管理用通路」の施設

- この通路に関しては、基本的には現状維持とします。なお、水はけの改善や、歩きやすさなどを考慮して、多少コースを移動することがあります。
- これまで「どこまでが西岡公園？」という不明確さを解消するため、公園と自然歩道の境目に看板を立てます。



イメージ図：管理事務所から取水塔

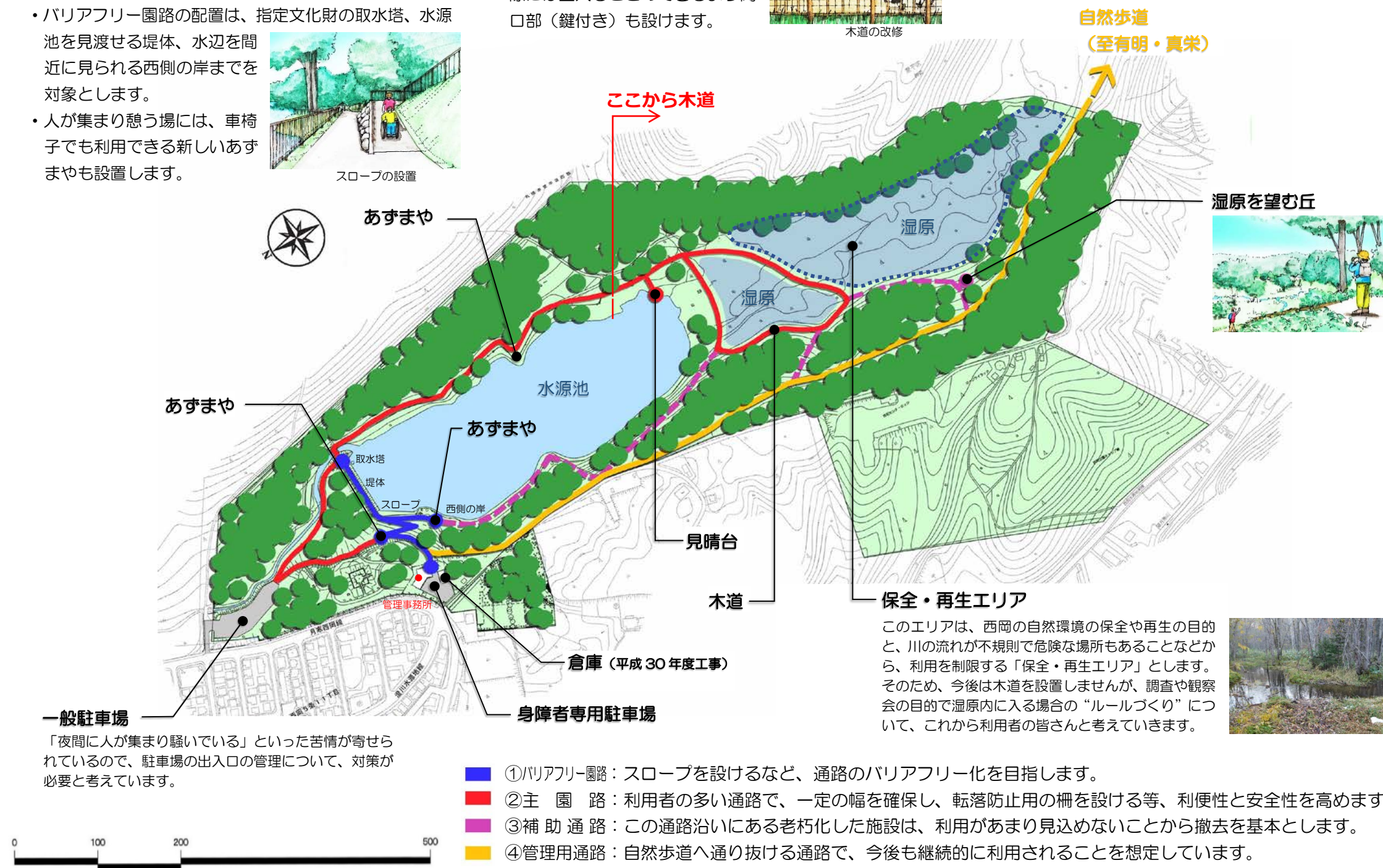


イメージ図：湿原と新しい木道



イメージ図：倉庫の新築(関連事業)

平成 24 年度のワークショップで話し合った新しい倉庫。この倉庫の工事は、今年の春からはじまります。



- ①バリアフリー園路：スロープを設けるなど、通路のバリアフリー化を目指します。
- ②主園路：利用者の多い通路で、一定の幅を確保し、転落防止用の柵を設ける等、利便性と安全性を高めます。
- ③補助園路：この通路沿いにある老朽化した施設は、利用があまり見込めないことから撤去を基本とします。
- ④管理用通路：自然歩道へ通り抜ける通路で、今後も継続的に利用されることを想定しています。

保全・再生エリア

このエリアは、西岡の自然環境の保全や再生の目的と、川の流れが不規則で危険な場所もあることから、利用を制限する「保全・再生エリア」とします。そのため、今後は木道を設置しませんが、調査や観察会の目的で湿原内に入る場合の「ルールづくり」について、これから利用者の皆さんと考えていきます。

